

次号予告

特集 組織知能と情報ネットワーク企業

情報技術による組織知能の向上

—ホワイトカラーの生産性革命に関する方策—

……………山田 善靖, 新井 健 (東京理科大学), 今井 幸雄, 荒川一彦 (野村総合研究所)
知的社会における製造業の企業知能の高度化と情報活用……………林田 収二 (古河電気工業)
情報ネットワーク企業の組織知能モデル……………林 敬三, 太田 敏澄 (電気通信大学)
組織知能再考……………平野 雅章 (早稲田大学)
組織知能の解明と経営科学的意義……………住田 友文 (電気通信大学)

編集後記●巷では社会問題や環境問題が頻繁に取りざたされています。青少年の犯罪は増加し、企業による種々の犯罪も深刻さを増しています。あちこちの海域で重油の流出事故が起き、松枯れの主因が生物によるものが大気汚染によるものが論争的になったりしています。ほとんどの場合、現象は皮相的にとらえられ、局所的な悪の指摘が声高に行われます。しかし、これらのできごとに共通する重要な（そして看過されがちな）性質は、被害者と加害者とが渾然一体となっている点だと思います●深夜のコンビニエンス・ストアは青少年が夜の町に居続けするのを助長しますが、同時に食品・物流・サービス産業に従事する人々に生活の糧を与えてくれます。酸性雨の引き金となる大気汚染は、重化学工業に依存して生きる人々にとっては必要悪なのかも知れません。そして、我々は好むと好まざるとに関わらず、この“被害者・加害者渾然一体システム”に取り込まれてしまっています。そこから

自分だけが抜け出して、あらゆる意味で“良い子”になることは容易なことではなさそうです●さて、今月の特集は“文科系のためのOR教育”です。そこでは、ORの技術的側面よりも、モデリングの重要性が指摘されているように思われます。実際、ORの数学的技術を用いるには、まずは関係する要因を正しく列挙し、モデリングを行わねばなりません。このことは、ORが本来的に、“正しい観察眼にもとづいたモデリングによる世界認識のすすめ”という啓蒙的な側面を持っていることを意味していると思います。前段の社会問題・環境問題のためにも正しいモデリングが不可欠です。こうしてみると、社会のさまざまな層にORを普及させることには大きな意義がありそうです。とはいえ、ORが人間の価値観とは独立な存在であるのも事実。人間に対する優しい心と透徹した眼差しを兼ね備えた人々がOR技術を駆使できるような、そんな世界が近い将来に訪れんことを。(栗田 治)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 逆瀬川浩孝(早稲田大学) 副委員長 山上伸(東京ガス(株)), 山下勝比広(株東芝), 大山達雄(埼玉大学)
委員 伊藤裕康(株富士通研究所), 上田徹(成蹊大学), 葛山康典(早稲田大学), 國澤直樹(東京電力(株)), 栗田治(慶応義塾大学), 佐賀井重雄(財電力中央研究所), 外嶋成留(住友金属工業(株)), 田口東(中央大学), 田中宏和(神奈川工科大学), 中里宗敬(青山学院大学), 西尾チヅル(筑波大学), 水野眞治(統計数理研究所), 矢島安敏(東京工業大学), 山下英明(駒澤大学)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成9年6月号 第42巻 第6号 通巻438号

代表者 刀根 薫

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 逆瀬川 浩孝

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円(本体924円, 郵送料含) 年間予約購読料11,040円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337), 日経弘報社(3563-2241)へ